

介護予防体操を普及しよう サロン運営研修会に秀峰高校生参加

2月22日、市社会福祉協議会主催のレクリエーション研修会が市民体育館で開催されました。研修会は毎年、サロンの運営ボランティアなどを対象に行っているもので、今年は小林秀峰高校福祉科の1・2年生42人も参加。参加者たちは「シン・こばやしパワーアップ体操」を通して歩行や転倒防止に必要な筋肉を鍛える動きを学びました。



研修会に参加した秀峰高校福祉科の生徒らは今後、地域のサロンの場に参加し、シン・こばやしパワーアップ体操の普及活動などを手伝う予定です

女性の視点で避難所の運営考える 文化会館で防災講演会

2月17日、文化会館で県主催の防災講演会が開かれ、NPO政策研究所の相川康子専務理事が講演しました。相川さんは、新聞記者として阪神・淡路大震災取材・検証した経験をもとに、災害対応には女性を含む多様な視点が必要と指摘。避難所を単なる避難先ではなく地域の防災拠点として多機能化することの重要性などを訴えました。



講演会後は、姉妹都市能登町に派遣された市職員による被災地の状況や現地での活動報告会もあわせて開催されました

真っ白い人生の主人公はあなたたち 永久津中でライフデザイン講座

2月16日、永久津中学校でライフデザイン講座が開催されました。子どもたちが将来の人生設計を考えるきっかけにして欲しいと企画されたもので、サンワード・ラボ株式会社代表取締役の長友まさ美さんが講師として登壇。「ありがたい未来を実現するために必要なことは」をテーマに子どもたちは自分の未来について考えました。



2年生の今別府彩夏さんは「これからは小さな目標を立てて、自分が想像する未来に向けてがんばっていきたい」と決意を話しました

茶共進会優等の園田悠輔さん 農林水産大臣賞を受賞

2月6日、県農産園芸特産物総合表彰式が行われ、茶共進会（普通蒸し煎茶）優等の園田悠輔さんが農林水産大臣賞を受賞しました。また、野菜共進会（個人部門）1等坂元孝成さんと果樹共進会（経営部門）1等白ヶ澤厚さんが九州農政局長賞、茶共進会（深蒸し煎茶）優等園田信幸さんが日本茶業中央会長賞を受賞し、2月20日に小林総合庁舎で表彰状が授与されました。



園田さんは、令和2年度に受賞して以来2度目の農林水産大臣賞受賞。57点の出品があった普通蒸し煎茶部門の中から、優等に選ばれました

乗って残そう吉都線 応援企業第1号に社会福祉協議会

小林市を含む沿線5市町でつくるJR吉都線利用促進協議会が認定する「JR吉都線応援企業」の第1号に、小林市社会福祉協議会（吉丸政志会長）が認定されました。認定により、従業員で沿線自治体に自宅と職場がある人は、通勤定期の購入費用と通学定期の差額が補助されます。2月27日には高原町役場で認定書交付式が行われました。



認定書を受け取った吉丸会長は「職員の通勤利用だけでなく、デイサービスや高齢者サロンなどでも吉都線の利用を呼びかけたい」と話していました

地域日本語教室 KIZUNA で 文化や生活に役立つ情報など学ぶ

2月18日、TENAMU 交流スペースで地域日本語教室 KIZUNA が開かれました。KIZUNA は、市内で暮らす外国人市民の生活を支援し日本文化に親しんでもらうことなどを目的に、昨年7月から2月にかけて16回開催。最終回となったこの日は外国人市民や地域日本語サポーターなど約20人が参加し、巻きずしづくりに挑戦しました。



参加したレヤン・ヌグロホサプトロさんは「KIZUNA では日本の文化などいろいろなことを教えてもらった。また参加したい」と話していました

畜産の更なる発展へ振興大会を開催

2月16日、畜産振興大会が開催されました。畜産農家や関係者など約400人が参加。九州農政局渡辺裕一郎次長と宮崎大学関口敏教授の講演が行われ、参加者は九州を取り巻く畜産の現状や牛伝染性リンパ腫対策の効果・メリットなどについて学びました。



豊かな森林環境を次世代へ

2月17日、松ヶ尾市有林（北西方）で植樹祭が開かれました。北霧島水源の森づくり推進会議（岡本直一郎議長）主催で開かれたもので、市民など約100人が600本の苗木を植栽。参加者はクワやスコップで穴を掘ったあと、丁寧に苗木を植えていました。



未成年と成年の違いってなんだろう 秀峰高校で法制度学習会を開催

2月16日、宮崎県行政書士会（河野芳輝会長）が秀峰高校で「大人ってなんだ？～法的に大人になるということ～」をテーマとした法制度学習会を実施しました。学習会には今年18歳となり成年を迎える同校3年生約190人が参加。新成人が巻き込まれやすい身近な契約の問題や借金、クレジットの問題などについて理解を深めました。



学習会では身近な売買契約の支払い義務が生じる時期などについてのクイズが行われ、予想外の答えに多くの生徒たちから驚きの声があがっていました

青学の選手など参加の長距離記録会 全国トップレベルの走りで会場沸かす

3月16日、小林市陸上競技協会主催の長距離記録会が市営陸上競技場でありました。800m、1500m、3000mの種目で行われ、市内外の中学生や小林高校駅伝部、他県の高校駅伝強豪校の選手など約180人が参加。箱根駅伝で総合優勝を果たした青山学院大学の選手も出場するなど注目の記録会となり、多くの陸上ファンが詰め掛けました。



青山学院大に進学予定の小林高校佐藤愛斗選手（写真中央）も出場。また、3000m日本高校歴代4位の好記録も飛び出すなど大いに盛り上がりました

卒業を前にした西小林小6年生が 1年生に絵本を読み聞かせ

3月6日、西小林小で卒業を前にした6年生が、学校への恩返しとして1年生に絵本の読み聞かせを行いました。絵本は6年生が1年生のために選んだもので、1年生は絵本の絵に見入ったり物語に聞き入っていました。6年生の宮原大輝さんは「大きな声と笑顔で読むことを心がけた。1年生がよろこんでくれてうれしい」と話していました。



6年生は事前に小・中学校「読み聞かせ」連絡協議会（坂下美千代代表）の講師から読み聞かせの方法やコツを教わり、自宅でも練習を重ねてきました

ライオンズクラブがワイヤー錠を寄贈

2月26日、小林ライオンズクラブ（嶋田よしひさ会長）が4月から市内の中学校に通う、新1年生にワイヤーロック錠450個を寄贈しました。嶋田会長は「子どもたちの防犯意識の向上などに有効に活用していただければ」と話していました。



小林西高生が地域魅力化の活動を発表

3月7日、小林西高校普通科1・2年生が、総合的な探究の時間での活動成果を発表しました。生徒は7班に分かれて1年間活動。新たな小林銘菓の開発の取り組みや市内の教育の現状の分析、TENAMUビルでのまちなか活性化の活動などを報告しました。



3 地区体育館の照明をLED化

南・三松・三ヶ野山の3地区体育館の照明LED化工事を昨年11月から2月にかけて行いました。これにより、館内が明るくなり、さまざまなスポーツをより快適に行えるようになりました。家族や友人、クラブ活動などで、ぜひご活用ください。



株式会社ビーフ倉菌が 学校給食用に牛肉212キログラムを寄贈

3月11日、株式会社ビーフ倉菌（倉菌裕次郎代表取締役）が学校給食用に牛肉212キログラムを寄贈しました。児童・生徒に美味しい牛肉を味わってほしいと寄贈されたもの。倉菌代表は「大人になったときにやっぱり地元のものがおいしいと思ってもらえるように、子どもたちに地域のいいものをもっと知ってもらいたい」と話していました。



市内で黒毛和牛の一貫経営を行う同社。寄贈いただいた牛肉は、3月12日に市内小・中学校の学校給食で牛丼として提供されました

紙屋中卒業生有志が還暦記念の寄付

3月8日、紙屋中学校の昭和54年卒業生有志が、還暦記念として母校に寄付を行いました。当日は4人が同校の竹之内千春校長のもとを訪問。贈呈式で代表の渡邊善朋さんは「微力だが子どもたちの生活向上のために役立ててほしい」と話していました。



体育・文化振興を願い市内高校に寄付

12月21日、小林市区長会が体育・文化振興のため、小林高校、小林秀峰高校、小林西高校の3校に寄付を行いました。橋ノ口孝一会長は「区・組加入世帯の協力によるもの。子どもたちのため、体育・文化活動の発展や強化育成に役立ててほしい」と話していました。



野尻中同窓生が母校へ寄付

3月14日、平成10年度野尻中学校卒業生厄払い祈願同窓会が野尻中学校に寄付金20万円とワンタッチタープテント2張を贈りました。西清志実行委員長は「子どもたちの学力向上や環境整備、部活動活性化などに役立ててほしい」と話していました。



トップアスリートの技術を体感 川面茜さんが東方中でバスケット指導

2月27日、本市出身で元女子バスケットボールU-18日本代表の川面（旧姓新原）茜さんが先生を務めた体育の授業が東方中学校で開催されました。これはトップアスリートなどを授業に派遣するスポーツ庁の「アスリート派遣事業」の一環。授業では、同校と小林こすもす支援学校の児童約50人が体を動かす楽しさを学びました。



川面さんはバスケット女子日本リーグでの強豪JX-ENEOSサンフラワーズ（現ENEOSサンフラワーズ）でキャプテンを務めた経験を持つ選手です

小林看護医療専門学校で卒業式 感謝の想いを胸に看護の道へ

3月1日、小林看護医療専門学校の卒業式が挙行され、7期生38人が新たな道へと歩み出しました。卒業生を代表して山之内萌さんが、多くの人に支えられて乗り越えてきた実習を振り返り「誰からも信頼される看護師になりたいという想いが強くなった」と答辞。「感謝の想いを胸に、看護の道を進んでいきます」と決意を述べました。



志戸本宗徳校長から卒業証書を手渡される卒業生。38人中20人が西諸地区の医療機関への就職予定で、地域医療の担い手として期待されます